たかはた 議会だより

No. 165

令和6年
9月定例会
10月20日号

議会だよりのページ

・Topic 1
9月定例会で決まったこと
主な審議結果 P2-5

・Topic 2
委員会の審議状況
特集 町民インタビュー P6-7
常任委員会レポート P8-10

・Topic 3
議員から行政に
一般質問 P11-19

決算審査 令和5年度決算をチェック → 認定 全会一致

令和５年度の決算について、決算特別委員会で審査し全ての決算を認定しました。身近な事業、事業費の大きなもの等を中心に紹介します。

（金額は万円未満切り捨て）

全会計支出額（使ったお金）　235億6653万円

基金残高　27億4013万円　　借金残高　169億2200万円

			収　入（歳入）	支　出（歳出）
一般会計			142億2755万円	132億9332万円
特別会計　11会計　合計			67億3226万円	64億3080万円
公営企業会計	病院事業	収益的収支	27億1475万円	27億0439万円
		資本的収支	2億5537万円	4億3699万円
	水道事業	収益的収支	5億6535万円	4億7250万円
		資本的収支	4435万円	2億2853万円
総合計			245億3963万円	235億6653万円

特徴的な事業

新庁舎建設　スマートインターチェンジ設置
物価高騰・経済支援　亀岡地区公民館改築

新庁舎建設事業

- 庁舎周辺工事ほか　1億5863万円
- 木材調達　3860万円

スマートインターチェンジ設置事業

6400万円

物価高騰・経済支援

- 畜産飼料高騰支援　4344万円
- 出産子育て応援　920万円
- 低所得支援　2億826万円
- ひとり親家庭支援　332万円

亀岡地区公民館改築事業

1214万円

商工費

8億2661万円

- 中小企業設備投資　1286万円
- リーダー経営人材育成塾　990万円
- 企業創業支援　988万円

※ふるさと納税額　4億2976万円

農林水産業費

5億7520万円

- 新規就農　2870万円
- 担い手　1276万円
- 有害鳥獣対策事業　684万円

教育費

10億6690万円

- 小学校施設整備　2562万円
- 学校給食費負担軽減等　2850万円

消防費

4億4526万円

- 消防施設整備　1220万円
- 防災対策ほか　103万円

総務費

32億9936万円

- 地域おこし協力隊　601万円
- 書かない窓口　2489万円
- デュアルスクール（和田）　330万円

民生費

35億9900万円

- 子ども若者サポート　242万円
- 病児保育　1154万円

衛生費

11億4267万円

- 母子保健　1737万円
- 地域猫活動等　50万円

土木費

9億1748万円

- 道路新設改良　5800万円
- 道路維持事業　8489万円
- 百野橋補修事業　3619万円
- フォーチュンタウン　2022万円
- 空き家バンク　54万円

決算

令和5年度の決算が提案され、次の質疑があった。

旧一中の桜管理

問　管理と同時に保護もしているか。

答　枝折れなどの管理はしているが、保護までは、していない状態である。

子ども・若者サポート

問　ひきこもりの状態にある者の現状把握は。

答　ひきこもり等実態調査を行い把握している。若者支援コーディネーターを配置して対応し、ひきこもりに関する相談窓口の常設を行った。

介護保険施設等物価高騰対策

問　利用者にも還元されているか。

答　安定した事業の継続を支援することで、利用者に対し介護サービスを提供することができている。

地域猫活動

問　成果と実績は。

答　飼い主のいない猫等への避妊手術やボランティア団体による活動へ助成することで、近所トラブル防止につながった。

譲渡会を3回開催し30匹中10匹程度引き取られた。

新規就農者

問　最近の傾向は。

答　町外からの参入が増えて、果樹に携わる就農者が多い。

有害鳥獣対策

問　農作物被害を防ぐため5年度の捕獲実績は。

答　イノシシが74頭、サルが41頭、クマが5頭であった。

指定文化財環境整備

問　整備箇所と保存計画の現状は。

答　一の沢洞窟と日向洞窟の2か所の看板整備を行った。文化財の保護については決まっていない。

人事

教育委員会委員

工藤　俊康　さん

※再任に同意

条例

附属機関設置

「小学校教育環境等検討委員会」を教育委員会の附属機関として整理する必要が生じたため提案された。

消防団組織活性化

組織再編に併せ、消防団員の定数を減員する必要があるため、提案された。

807人→610人

契約

新庁舎外構整備工事請負

【契約額】

7348万円

【契約先】

後藤・升川・弘栄・電化特定建設工事共同企業体

財産の取得

〈新庁舎備品購入事業〉

町内事業者の受注機会の創出を目的に、各種備品を7グループに分けて入札を実施した。

事業名	契約先	契約額
集密書架購入	㈱メコム米沢支店	28,380,000円
収納キャビネ購入	㈱三和	13,823,700円
執務室デスク購入	ふみや文具店	33,908,600円
事務椅子購入	㈲寄清堂印刷	21,670,000円
会議室備品購入	㈱アイ・システムビズ	17,006,000円
議会エリア備品購入	㈲東北通信システム	17,820,000円
共有スペース備品購入	㈲高畠印刷	8,645,670円

補正予算

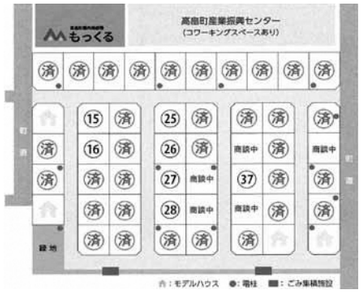
11会計補正総額 10億6528万円

可決
全会一致

令和6年10月11日 12時時点

主な会計

一般会計	8億2288万円	（総額 158億 170万円）
国民健康保険	9280万円	（総額 25億9278万円）
介護保険	1億2475万円	（総額 30億3043万円）
後期高齢者医療	150万円	（総額 2億8091万円）
宅地造成	2335万円	（総額 5866万円）



▲残りわずか　フォーチュンタウン

▲建設が進む亀岡地区公民館

▲新しい協力隊員

▲御礼に来庁された高畠高校校長

注目事業

・官民協働のまちづくり　4680万円

・新庁舎移設（県防災システム、防災行政無線ほか）　3741万円

・亀岡公民館改築　7180万円

・土地改良区決済金等支援　1273万円

・事業所型地域おこし協力隊（インターンから正式採用へ）　362万円

・児童手当システム改修　385万円

・防災対策（自動ラップ式トイレほか）　129万円

・7年度、8年度　高畠高校就学支援　2000万円

高畠高校存続に向け6年度に支援事業を行った。継続した支援をするように議会提案で申し入れを行い、7年度と8年度も就学支援を行う。引き続き魅力化アップにも取り組んでいく。

・新規就農者支援　1683万円

6人の見込みで予算をみたが就農計画がうまくいかず、事業を組みかえて初期投資促進事業として3人が就農している。

特集 まちの声 聞かせておごえ！

町民インタビュー

姉妹都市「横浜市栄区」との交流を

鈴木将道（すずきまさみち）さん

亀岡地区
30代

高畠町と姉妹都市になっている横浜市栄区のことを知りました。今のところ行政同士のお付き合い（秋の栄区民まつり）だけで、姉妹都市になっていることも町民のほとんどが知らないようです。

私は横浜が好きなので、高畠町と栄区の結びつきをさらに強めてほしいと思います。

栄区の人たちに、町の農作業体験やインターシップに来てもらい、もっと交流を深めてほしい。農業も人手不足なので、生産者と消費者という点でも繋がって、町民の姉妹都市への関心も増えて、さらに交流が広がるはずです。

町も、現状対応を考えてほしい

高橋正俊（たかはしまさとし）さん

和田地区
50代

年々増えているという空き家ですが、自宅近くにも数件あるため日々心配しています。

管理する人が不明なため、ガラスが割れたり建物が破損することで廃材が飛んだり獣の住み家になるほか、周りの雑草が背丈以上に伸びて町道までかぶさってきます。

小中学生が登下校でイノシシも出没横断する狭くなった道路を歩くため、危険を感じます。

時々、道路わきの雑草を自分で刈りますが、他人の所有地までは入れず、距離があるため大変です。道路管理も含め、行政対応も必要ではと感じます。

地域活動に関わってみて

田中茜（たなかあかね）さん

和田地区
40代

私が地域活動に関わって思うことは、世代を超えたつながりの場であったはずの交流事業が少なくなったり、縮小するなど、地域のいろいろな年代の人とのつながりやコミュニティーが作れなくなってきています。

以前に比べれば事業の数は戻りつつありますが、参加する機会が減れば興味を持って関わってくれる将来の担い手も見つける機会も減り、人材不足にもつながります。

地域づくりやまちづくりはとても難しい課題でもありますす。行政との連携も図り世代交流の在り方も考えながら、少しずつでもより良い地域づくりやまちづくりを目指すことが大事なのではないでしょうか。

就職促進奨学金返還支援事業について

潟湊妃乃（かたみなとひの）さん

和田地区
10代

制度のことを知らなかったし、周りに知っている人がほとんど居なかった。そのため、県内の学校に詳細を配ったり、もう少しその制度を周知させるのが良いと思った。

県内で働きたい人は多いと思うので良い制度だと思う。もし大学在住中に進路が変わり、申請した市町村を取り消して他の市町村に申請できると良いと思う。

大学卒業後、何年か他県に住んでその後県内に戻って就職、生活する場合同じようにその制度は適応となるのか知りたい。

あんなこと こんなこと

地域で高齢化社会の支えあい

島津嘉男（しまつよしお）さん

二井宿地区
60代

地域には夫婦二人だけや単身の高齢者世帯が多くみられます。地区には商店等がなく、買い物、病院等にも行くまでの足がない人もいます。また、足腰も弱く歩くのが困難な方もおられます。

デマンド利用もいいのですが、地域の人が車を出し合って共同で運営し「高齢者の足」を担うような組織があればと思います。高齢者が行きたいところへ移動できればいいと思います。みなさんも考えてみてください。

補助事業等の拡充について

島津弘一（しまつこういち）さん

二井宿地区
70代

昨年の第２分団秋季消防演習が筋部落を会場に開催され、筋自主防災会では消火栓を使用しての放水訓練を実施しましたが、消火栓用ホースの数か所から水漏れが発生しました。また、今年４月に当部落内で発生した火災を消火するため、現場近くの消火栓による初期消火を行いましたが、同じようにホースの数か所から水漏れが発生しました。

このような状況から、部落内で建物火災が発生した場合の初期消火活動に不安を生じ、年内に部落内の５か所に設置してある消火栓のホース10本を点検することにしています。

以前、町にホースを交換する場合の補助事業について問い合せたところ、補助事業の対象外であるとの回答がありました。ホースを交換する費用の全額を部落で負担するのは困難な状況なので、町の補助拡充や消防署や消防団からの計画的なホースの払い下げ等について検討していただきたいと思います。

魅力あるまちづくりへの提言

富樫徹（とがしとおる）さん

屋代地区
80代

東根市がなぜ県内一住みたい所となっているのか？開発と大型企業誘致に成功し、駅が二つもあり中高併設校が設置され、人口増と住宅増設が進み、かつ山形市内への通勤者も増加。人口増・市発展を参考にしたいものだ。

1．高畠駅東側の開発として
　農振解除、企業誘致、住宅地の増設、新商店街の立ち上げ、高畠高校の改変など。
2．観光、健康・憩いの場づくり
　緑道の桜並木を「置賜桜街道」への編入と宣伝強化、鳩峰峠や屋代川の整備と観光化。
3．田舎暮らしの魅力創造
　山間部の特産物の宣伝、住宅誘致、散歩道・憩いの場設定。
4．荒廃耕作地の再利用（家庭菜園として貸すなど）

やはり、各地区の核となっている保育園・小学校等は可能な限り現在地で継続。地区ごとの特色を残しながら町発展の計画を立てるべきで、統合して大きくすればいいという問題ではないのでは？

各地区と役場や駅との交通網の工夫と整備は必至である。

SNS やってます！

二次元コード

議会の動きなどタイムリーにお知らせします。フォローよろしくお願いします。

高畠町 Official FaceBook 議会

高畠町議会公式
Facebook

総務文教

高畠高校支援

昨年度に実施した高畠高校への支援に対して、今年度は保護者や生徒に早い段階から周知を図るために、早期に予算を確保することと、継続的な支援を行うことの2項目を、7月町当局に対して申し入れを行なった。

それに対し、町当局からは、早期の予算確保を実施し、3年間の支援を考えている。また、支援内容に関しては金銭面だけではなく、授業などのソフト面も同時に進めていくことが必要として、慎重に内容を検討していくこととなった。

主な支援策として、スクールバスを町で運行することはできないかの提案に対して、町運営のバスの台数や人員が限られていることや、県立高校であるために県全体での取り組みが必要であるとの見解から、バスの運行は難しい結果となった。

引き続き、委員会では、支援内容を検討して、高畠高校の魅力化につながるよう協議を進めていく。

産業厚生

▲アイガモロボット

有機農業

①有機農業産地づくり推進協議会総会にての事業計画了承事項。

・検討会を開催。

・生産技術に関する研修会開催。研修内容は、全国有機農業研究会委員を講師として招いての圃場視察やアイガモロボット実習など。

・独自認定制度などを盛り込んだ流通消費関係の取り込み。

・認証内容は認証対象A（化学肥料不使用レベル）と認証B（節減対象農薬7割減）で考えている。5割減以下は検討中。

②畑作有機栽培の今後の振興計画は次のとおり。

・アドバイザーによる研修会開催。

・成功者モデルをベースに発展させ、産地化に向けて進めていく。

・地域認証については、今年度は準備期間として要綱を検討し、来年度からの運用に向け、直売所関係者への説明、生産者への登録呼びかけを進めていく。

空き家対策

①平成31年策定の空き家対策計画改定について。

・本来ならば昨年改定予定だったが、法律が昨年末、変更になったため今年度見直し、改定予定。所有者にアンケート調査して、意向も考慮する。

・素案が出来次第空き家対策検討委員会を開催し、対策を総合的に進める。

②建設課として最も課題としているのが危険空き家の相続人がいないこと。文書通知をしているが応答がない状況。周辺家屋に危険を及ぼしそうな物件が3件ある。町では応急措置にて対応。

放課後児童クラブ

①町内7施設にて利用保護者からアンケート調査を行った。結果は下記の表のとおり。

②施設について

・2施設は老朽化のため代替物件を探しているが難しい状況。

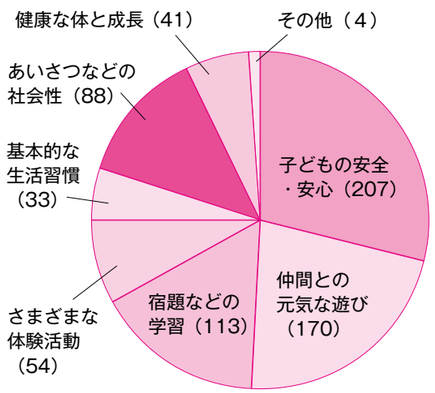
・トイレが一つしかない施設があり、公民館と共有することを教育委員会と話を進めている。

・小学校の空き教室利用については、教育委員会確認では「空き教室はない」ということ。

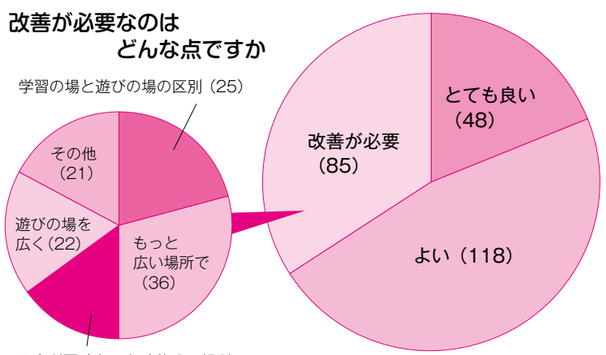
③施設利用費減免について

・課税状況にもよるが多子世帯については、2人目から町と県で2分の1ずつ財源を確保し取り組んでいる。

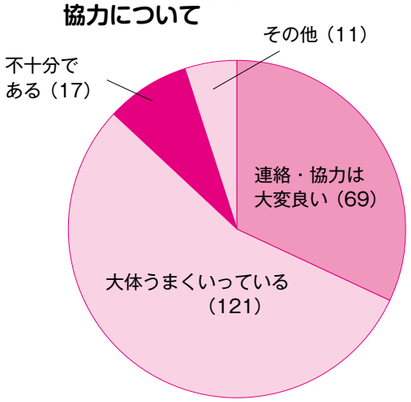
1．放課後児童クラブに期待することは



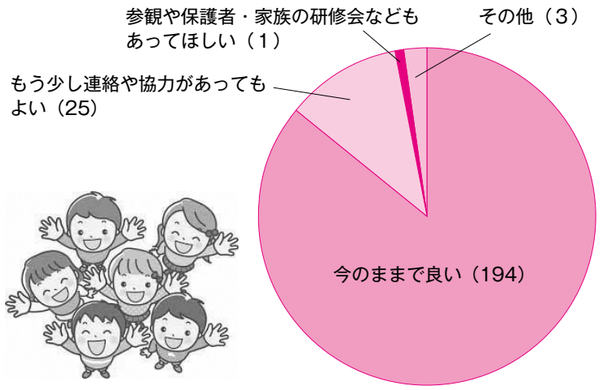
2．施設設備について



3．児童クラブと小学校との連絡や協力について



4．児童クラブと家庭との連絡や協力について



委員会活動レポート

議会運営

行政視察

● 議会改革に向けた取り組み

【研修目的】
町民に開かれたより身近な議会運営を進めるために、議会自ら改革を図り、町民への情報発信力を高めることを目指して、通年議会の在り方など議会改革に向けた取り組みの先進地を視察し、調査研究を行うこと。

岩手県奥州市

【日時】
8月20日㈫

【内容】
奥州市では、議会議員の在り方、活動の基本的なことなどを条例で明らかにしている。ワールドカフェや政策提言等、全て活動の原点に基本条例がある。議会の構成や議員が大幅に変わろうが変わるまいが、議会の土台として、指針としてあるべきだと感じた。

高畠町議会では、6月定例会で「議員政治倫理条例」を制定した。我々議員が高い倫理観を持って町民に信頼されるための行動基準を定めたものである。町民の負託を受けた議会としての役割と責任を、さらに明確に定めた「議会基本条例」の在り方や必要性が問われている。先進地の報告を受けながら、常に社会情勢を踏まえた的確な活動に対応できる検証が求められていると感じる研修となった。

議会は「チェック」と「提言」による二刀流議会で市民の負託に応えます。

議会の役割を端的に示したものといえ同感である。

岩手県北上市

【日時】
8月21日㈬

【内容】
議会基本条例、通年議会、市民と議会をつなぐ会、議員モニター制度導入について意見を聞いた。

北上市では、議員定数26人（男性18人、女性8人）令和6年3月の改選により、7人の議員が新人であった。今までの議会機能を取り組みながらも、議会改革の取り組みについて議会基本条例のもと、議会の役割を明確にすることに力を入れている。

市民の負託に応え市民福祉の向上と市勢の発展に寄与することを掲げ、多様で多数の町民と接する機会を設け、住民意思を受け止める役割を果たすことは、高畠町議会でも学ぶべきところである。

町民と議員をつなぐ会に関しては、広聴部会が活性化することで可能な取り組みである。政策提言につなげること、町民意見を反映させることなど、工夫する必要性を感じた良い研修となった。

議員研修会

町村議会意見交換会

女性議員と次世代目線から地方議会を考える

【日時】
7月31日㈬

【場所】
山形県自治会館

【内容】
山形大学人文社会科学部総合法律コースの3人の学生と県内の女性議員代表4人が意見交換会を行った。議会への関心度を高める発信の工夫や、女性や若者が立候補しやすい環境づくりに関して意見を交わした。

議会報を事前に調べた大学生は「議員本位の発信が多いが知りたい情報が見にくい」との鋭い指摘。女性や若者が立候補しやすい環境を作るには、どのような準備、経費、運動等の方策なのかなど、活発な意見交換となった。

なり手不足解消に向け、議員は報酬のアップや主催者教育の充実を重要項目に挙げるなど、とても有意義な研修であった。

一般質問

直島義友（なおしまよしとも）議員

320ミリの大雨が降ったら

町長　防災マップに掲載している

問　7月下旬に庄内や最上地方に、線状降水帯による大雨で、車両被害、高速道路の崩落越水による田畑の被害そして家屋の浸水、流失、さらに流木の被害など多大な被害が発生した。

もしも当町でも同じような320ミリの雨が降った場合、町内における河川の氾濫のおそれのある箇所、およびその被害程度を把握しているか。

答　水防法に基づき、洪水予報河川や水位周知河川ごとに浸水被害の想定が行われており防災マップに掲載している。想定最大雨量の場合、防災マップに示す範囲で被害発生が想定される。

屋代川の工事内容は

問　屋代川で国土強靭化工事の標示看板があるが、この工事内容は。

答　県発注の工事ではあるが、令和6年度から2か年で、吉野川の合流地点から八坂橋までの浚渫（しゅんせつ）と支障木伐採および深沼橋・八坂橋の橋脚を保護する工事を実施する。

※浚渫とは、河川の水底をさらい、土砂を取り去る作業のこと。

▲工事が進む屋代川

防災インフラ整備の要望は

問　高畠町に住みたい理由の一つに、地震・大雨その他自然災害の少ない町と上げている人が多くなっている。防災インフラ整備について、県や国に対する要望はどうなっているか。

答　屋代川、砂川、和田川周辺の住民から組織する同盟会や愛護会等と河川パトロールを実施し、支障木伐採や浚渫の要望書を県や国に毎年提出している。

早期非難の呼びかけは

問　早期の避難の呼びかけが大事だと話されているが、各区長に周知する方法はどうしているのか。

答　防災行政無線や町のホームページ、SNS、地域のエリアメールなど、さまざまな手段で周知をしている。

町から直接区長さんに電話連絡をしたこともある。状況に応じて対応している。

米沢平野土地改良区の経費負担は

問　ここ数年、親から受け継いだ水田の扱いで悩んでいる農家が多くなっている。

貸したいが、借りる人がいない、高齢化などの理由で返却される場合も目立つようになっている。米を作らない、収入のない田に対し、米平から毎年経費負担が生じているのはいかがなものか。

答　賦課金は、土地改良事業の受益地域に賦課されるもので、その農地は土地改良事業の効果を受けられる状態にあると考えられるので、賦課金を負担いただく必要があると感じている。

決済金の負担軽減を

問　地区除外する場合一反あたり21万円の決済金が必要となる。国会議員や国に負担軽減の特例を要望する考えはあるか。

答　確かに、農業を辞められる方の負担は感じられるものの、農業基盤である水田や農業用水利施設の整備等は重要なものであるため現行のルールに基づき決済金を負担いただくべきものと考える。

動画配信はこちらから

夏休み中の学校プールの使用を禁止したのはなぜか

町長　児童が通う際の安全確保が難しいため

伊澤良治（いざわよしはる）議員

動画配信はこちらから

問　今年の夏休み中、どの児童も学校プールで泳ぐことができなかった。暑い夏に泳げない、泳ぐ場所がない。

さらに町内に町民プールがない。子どもの夏休み中の暮らしをどのように考えたのか。

答　近年の酷暑により児童が通う際の安全確保が難しいため、夏休み中の学校プールを開設しなかった。

今年度は、1学期を1週間延長し、7月末まで授業で泳ぐ機会を確保できるよう配慮した。

午前中の学校プール使用は可能だったのでは

問　今年8月の猛暑日は23日の一日だけだった。

南陽市の市民プールでは8月いっぱい開設し、午前中プール閉鎖したのはたったの一日であった。その理由は雷だった。

気温上昇が低い午前中の開設は可能ではなかったのか。その検討はなされたのか。

答　気象庁の予報を基に、校外の活動は熱中症リスクが高く開設すべきでないと判断した。

学校では1学期、熱中症を未然に防ぐため暑くなる前の早い時間帯にプール授業を行った。

今後も災害級の酷暑に対し、児童の安全な環境に十分配慮した教育活動に努めていく。

町民が安心し暮らし続けるために

問　昨年9月からスタートした置賜総合病院へのデマンドタクシーの実証実験は8月をもって終了した。町民誰もが、いつでも置賜総合病院へ安心して通院できる足の確保は、行政が責任を持って整備すべき課題と考えるが今後の見通しは。

答　1年間実施した実証実験の結果は、運行日数243日のうち実車して稼働した日が100日となり稼働率41%と想定よりも少なかったと感じている。

また、費用面も一人を片道運ぶのに要した費用は、約1万6千円となった。これらの結果を受け、さらに詳細な検証を行いながら、今後の対応を検討していく。

▲夏休みに通えなかった学校プール

さらなる利便性向上を

問　デマンドタクシーの実証実験が終了し、実証実験の利用者や通院困難になった人への支援が必要と考える。

他市町との連携などを検討してはどうか。

答　今後、実証実験を利用した方へのアンケート等を行い、通院理由、交通手段等を調査し、困難な事情を抱えている方の状況等を把握しながら対応策を検討していく。

生ごみのたい肥化で循環型地域づくり

問　生ごみを燃やすごみと区別し、生ごみ収集を行っている集落は何集落あるのか。

また、今後温暖化対策が地球的規模で取り組まれる中、生ごみ収集する集落を増やすことが求められている。

環境計画に数値目標として入れ、集落数の増加に取り組むべきではないか。

答　現在は、高畠地区と糠野目地区の17集落で収集している。

環境基本計画には再資源化率という指標があり、その数値に生ごみ収集量も含まれている。今後、目標達成に向け、生ごみ収集についても検討していく。

高温によるブドウ栽培への対応は

町長　気候変動に合わせた高温対策に取り組んでいく

武田正隆（たけだまさたか）議員

動画配信はこちらから

問　今年は昨年にも増して暑い夏となり、高温による大変な被害も発生していると聞いているが、当町のブドウ作りはどのような状況にあるのか。また、町としての対応は。

答　「高温少雨対策マニュアル」を用いて技術研修会を開催した。

今後とも、県、農協、農業共済組合とも連携を取りながら、気候変動に合わせた適応策を導入し、高温対策に取り組んでいく。

▲おいしい高畠の大粒系ブドウ

コメの作況状況は

問　高温による障害は品質低下の基となる。昨年、新潟では一等米が1割程度しかなく、わが山形県でも庄内地方で3割を切る被害が出たが、幸い、置賜地方では平年作となった。今年のコメ作りの状況はどうか。

答　昨年度の高温少雨に対する栽培技術についての講演会の開催や県農業技術普及課より栽培技術の指導をいただいた。

今年の作柄は、山形県で「やや良」とのことから、町内でも良い状況と認識している。

町内の市民農園は

問　近年、市民農園的な話題はあまり耳にしなくなった。いろいろな理由があると思うが町としてもしっかり調査をしてみてはどうか。

また、現在、当町に市民農園に該当するようなものはあるのか。

答　現在、町としては市民農園の開設は行っていない。

農地法の見直しにより、農地を所有しない方も、農作物の栽培を始めやすい環境に変わっている。

このような小規模の農地の活用を進めていくことも、手段の一つだと考えている。

耕作放棄地の活用を

問　農園活動で重要なことは耕作放棄地等の活用が進められるべきと思う。町が整備をし積極的に公募してみてはどうか。

答　離農等により、解約された農地については、農業委員会を中心に新たな借り手を探すなど、遊休農地とならないよう対応している。

市民農園を開園するためには、農地を耕したり、肥料をまいたりなどの準備をする必要があり、農家の方にも協力いただく必要がある。

今後調査を行っていく。

農業の安定と地域内循環を

問　生産者と消費者の直接顔の見える関係は大切である。スマート農業で海外に輸出できる農産物を生み出すことも大切と思うが、自給率38%の日本では、まずは農業の安定とそれぞれの地域の中で循環する小さな経済も忘れてはならないと思うがどうか。

答　町の農業振興の視点として、安定的かつ効率的な経営により、多くの農地を担ってもらう担い手の育成と、農村の文化や機能の維持に貢献しうる、小規模かつ多様な担い手の双方を育成し、食と農のまちづくりを推し進めていく。

西方茂太（にしかたしげた）議員

動画配信はこちらから

子どもたちの頑張りを後押しする施策

町長　子どもたちが活躍できる環境をつくっていく

問　出生数が減る一方で、子どもたちの頑張りが目立つようになってきた。

　今後子どもたちの活躍を後押しし、多方面で活躍できる環境を整えるために、現在はどのような施策を行っているのか。

　また、補助金等増額の考えはあるか。

答　スポーツの分野においては、全国大会出場者に対しての補助やスポーツ少年団へのさまざまなバックアップを行っている。また、中学校部活動においては強化等を図るための補助も行っている。

　分野は限らず、子どもたちのさまざまな可能性を広げるためにも補助も含めた支援策については常に検討しながら、子どもたちが活躍できる環境をつくっていきたい。

天候に左右されないスポーツ施設の拡充

問　町内には町営体育館をはじめ、子どもたちがスポーツをする際に、屋内競技の天候に左右されない施設が多くあるが、屋外競技の施設が無いと感じる。

　雨期や冬期においてもスポーツの技術向上に向けた施設が必要と感じる。全天候型に対応したグラウンド施設の拡充について考えがあるか。

答　現在のところ全天候型に対応した新規施設の拡充の予定はない。

　また、これまで町に対しての要望としては無かったと記憶している。

　いずれにしても、積雪の多い本町では、屋外スポーツにおける冬期間の練習環境は、競技力向上にとっても課題として捉えている。

高畠中学校のスクールバス運行

問　中学校のスクールバス運行に関し、さまざまな議論がなされてきており、距離によってスクールバスを利用し、該当しない生徒は徒歩や自転車通学が基本となっている。

　スクールバスの距離に該当しない地域や生徒は、天候によって、保護者が送迎を行っている。

　今後、全地域でのバスの運行計画はあるのか。また、単年度ごと生徒の人数によって、運行計画を見直す考えはあるか。

答　現在のスクールバスは、遠距離対策として運行しているため、全生徒を対象とする計画は現段階ではない。

　運行に際しては、入学する生徒数に合わせ効率的な運行の調整を図っている。

▲効率的な運行が望まれるスクールバス

菊地英雄（きくちひでお）議員

動画配信はこちらから

なぜ進まない住宅の耐震改修工事

町長　改修費の負担が大きいからと捉えている

問　国や県も含め、近年の大きな地震を教訓に、町では住宅の耐震改修を計画的に増やすために、耐震診断費用や耐震改修工事費に対する補助金を出している。しかし、かなり少ない実施率である。

　その要因をどう捉え今後、耐震化率の向上を目指していくのか。

▲耐震化のための筋かい補強

答　全国的に、地震に対する希薄化や改修資金に対する問題が、耐震改修工事が進まない要因と捉えている。

　また、核家族による高齢世帯の増加により将来を考慮し耐震改修工事に踏み切れない現状である。

　今後も、県と協力し耐震改修の必要性を積極的に周知していく。

河川の堆積土砂等の撤去は

問　7月に発生した庄内や最上地方の水害と同様に当町も経験しているが、河川の流下能力を維持するため、堆積土砂や支障木撤去が重要と考える。

　町と県との情報提供や対応の連携について伺う。

答　河川流下能力向上を図るため、県は、河川の浚渫や支障木伐採を進めている。

　町は、地元愛護団体等と協力し、河川パトロールを実施。毎年浚渫や支障木伐採が必要な箇所について県に要望書を提出し対応を依頼している。

田んぼダム活用の現状と課題は

問　最上川流域の水害抑制に向け、流出時間を遅らせるための「田んぼダム」活用に向けた取り組みの現状と、推進の課題は何か。

答　多面的支払交付金事業の中に田んぼダムに取り組めるメニューがある。この制度を用い、田んぼダムに取り組んでもらえるようアンケート調査を行っている。

　取り組むためには、ほ場整備された水田であることが条件。補助事業等もあるが、ハードルは高い状況である。

マイナ保険証への不安対処は

問　12月から健康保険証が廃止され、マイナンバーカードと一体のマイナ保険証となる。

　一方でシステムの不具合や医療機関等でのトラブル、事務の煩雑（はんざつ）化等も聞かれるが、利用者も含めた不安の声をどう捉えているか。

　またカードを所持しない人への、情報提供などの対応は。

答　医療機関等では、システムの変更や患者への対応等、導入初期は混乱もあったと思うが、本稼働になれば環境が整うことから効率的なサービスが提供できると考える。12月以降も被保険者証は、資格確認書として使用可。

　また、広報やホームページの掲載など、機会を捉えて情報提供を行う。

青柳（あおやぎ）　貴（たかし）　議員

コロナワクチン 不具合情報の提供を

町長　分かりやすく伝える努力を続けていく

問　厚生労働省によるとコロナワクチンによる死亡認定は７４７件で、他の全ワクチンの約５倍の被害件数となっている。また日本のみが７回接種しており、日本は感染者数世界１位になっている。ワクチンと死亡者数の因果関係の情報をつかんでいるか。また、健康被害の情報をもっと町民に知らせるべきではないか。

答　新型コロナワクチン接種と死亡の因果関係について、国や専門機関が調査・分析を進めており、厚生労働省は、今年３月、ホームページにおいて「これまでの死亡に係る副反応疑い報告の状況を踏まえると、現時点で、引き続きワクチンの接種体制に影響を与える重大な懸念は認められない」としており、町もそのように認識している。

　町民には国や県からの公式情報や指導をもとに、分かりやすく伝える努力を続けていく。

新型コロナワクチン健康被害に対するNHK報道内容

《予防接種健康被害救済制度》1977年～2024年8月5日現在

	新型コロナワクチン	インフルエンザワクチン
被害認定者数	7899件	――
死亡認定者数	762件	25件
審査待ち者数	1633件	――

▲死亡認定者数は過去最多

メディアの誤情報について

問　テレビ、新聞等では、ＰＣＲ検査の陽性者数を感染者数として、また、交通事故やガンの末期症状などで亡くなった方々を死亡後ＰＣＲ検査にかけて、陽性であれば「新型コロナ感染死」とし発表していた。このような報道を分析し町民に発信すべきだったのではないか。

答　町がメディアの報道内容を分析し、発信する立場にはない。科学的根拠に基づいた国や県などの公的機関からの情報を発信していくことが望ましいと考えている。

新タイプのワクチンの情報提供を

問　今秋から新しいタイプの「自己増殖型ｍＲＮＡワクチン」が供給されようとしている。治験を実施した他の国々では、ほとんど承認されていないワクチンである。

　従来のｍＲＮＡワクチンと同様の健康被害が起こることは十分に予想される。重症化率も季節性インフルエンザを下回っており、このような情報を町から発信すべきでは。

答　国の専門機関により、今後も新型コロナワクチンの安全性について、知見が集積され適切に評価されていく。

　国からの情報を注視しながら、引き続き町民の安全を最優先に考えた情報発信を行っていく。

「予防接種健康被害救済制度」の周知強化

問　コロナワクチン接種後、亡くなった方、体調不良で苦しんでいる方がいる。「予防接種健康被害救済制度」は周知不十分と思われる。この制度の周知を徹底化すべきではないか。

答　副反応や、後遺症と思われる症状などの相談先や予防接種健康被害救済制度の周知に努めている。今年度の新型コロナワクチン秋冬接種については、予防接種法の改正から制度が大きく変わり、改めて広報やホームページなどで、丁寧に周知に努めていく。

木村（きむら）雅博（まさひろ）　議員

次代を担う若者たちの政治参加について

町長　若者が主権者意識を持つことは重要なこと

問　人口減少社会による社会保障や基盤産業への影響、地球温暖化の深刻な被害等、これからの社会を考えると直に影響を受けるだろう若い世代の選挙における投票率が低い。

　若者の政治に対する根本的な考えを変える取り組み、いわゆる主権者教育をなすべきと考えるがいかがか。

答　若者が主権者意識を持つことは重要なことであると考える。町では今年度から、中高生が地域の大人とつながり学ぶ「高畠チャレンジプロジェクト」を実施している。まずはこの事業で地域住民と関わり、まちづくりを通して社会の在り方を考える良い機会にしてほしい。

若者たちの投票率を上げる手立ては

問　山形県選挙管理委員会実施の高校３年生へのアンケート調査で選挙啓発出前講座の実施が、高校生に良い影響を及ぼしている。

　また、家族の投票の有無が高校生の投票行動に極めて大きな影響を与えていることが明白になっている。保護者向けの選挙啓発が重要と思うがどうか。

　また、啓蒙（けいもう）の一つとして、若者を投票所の選挙立会人へ採用してはどうか。

答　家族の投票行動は子どもの投票行動に大きな影響を与えることから、子どもと一緒に投票に行くことを周知するなど、保護者に対して継続した啓発活動を行いたい。

　若者の選挙立会人は良い提案なので、検討していきたい。

子ども議会の開催を

問　若者の主権者教育の有効な事例に「子ども議会」があげられる。近隣市町でも実施しており、当町でも過去に小学生議会、中学生議会を開催した実績がある。来年度、新庁舎が完成し、議場も新しくなることから、記念事業として「子ども議会」を開催してはどうか。

答　過去に行った「子ども議会」は、課題もあり継続開催には至っていない。

　まずは今年スタートした高畠チャレンジプロジェクトで子どもたちの社会参画への意識を醸成（じょうせい）したい。

▲高畠高校出前講座での模擬投票

地区公民館を拠点とした中高生の地域参加事業

問　各地区公民館の館長代理から地区事業などの話を聞く機会があり、共通課題としてコロナ禍による影響と、若い世代の地域参加に苦労している件があげられた。高畠アートチャレンジの波及効果によるつながりや、中学生の部活動改革の受け皿としての文化活動等、各地区公民館を拠点とした受け皿づくりを企画してはどうか。

答　いかに若いうちから地域と関わっていくかが将来に向けての鍵である。文化活動も含めた中学校部活動の地域クラブ化によって、より選択の幅が広がる中で、地域事業における受け皿づくりについても検討したい。

秋葉晶子（あきばあきこ）議員

森林整備計画への考えは

動画配信はこちらから

町長　森林経営管理制度実施方針を策定している

問　町の森林整備を進める具体的な計画と流域治水について、関係機関と連携した取り組みは。

答　森林整備にあたっては、高畠町森林整備計画に基づいて実施している。併せて、森林環境譲与税を活用して森林整備を図るため、森林経営管理制度実施方針を策定している。

　流域治水については河川国道事務所、流域市町村長とで構成する最上川流域治水協議会にて情報交換などを行っている。

森林環境譲与税の活用を

問　国では、２０１９年３月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」を創設。地域の実態に即した森林保全を行うことができる。

　町では森林環境譲与税をどのように活用しているのか。

答　令和５年度において、森林環境譲与税を活用し、森林情報管理システムの使用料、ナラ枯れ防除対策事業、立枯木伐採処理業務、民有林造林事業、森林作業道整備事業、林道工事、森林環境基金積立などの事業を実施している。

▲なかなか進まない森林整備

町産材の利用は

問　森林は、木材の産出のほか、水源かん養や土砂災害防止、ＣＯ２の吸収などその機能は多岐にわたる。

　森林保全の推進で、木材の地産地消への考えは。今後、どのように利用拡大を進めていくのか。

答　今後、森林経営管理制度による適正な森林整備において、これまで整備がなされていなかった地域を一体的に効率よく森林管理を進め、伐採した木材を売払うことにより、利用拡大も進むものと考える。

地球温暖化対策

問　気候変動への適応として、町が中心となる取り組みが定められているが、森林に対する具体的な適応策は。

答　具体的な適応策として、山地災害の発生を予防するため、病害虫等防除法に基づき、県補助金を活用した森林病害虫防除、加えて県と実施する森林被害量調査を行っている。

河川の維持管理を

問　河川改修と同様に河川の支障木伐採や土砂堆積の除去を進めてほしいとの要望が多い。県に要望活動するほかに対策を講じてほしいと思うが、町の考えは。

答　県では、計画的に維持管理を進めているが、河川内支障木伐採が進まないことを町も危惧している。町は、地元の河川愛護団体等の協力を得て、河川パトロールを実施し、今後も要望活動を積極的に行っていく。

金子睦夫（かねこむつお）議員

自治区の課題解決について

動画配信はこちらから

町長　関係部署で情報共有を図って対応していく

問　少子高齢化やコロナ禍の影響でこれまでに類を見ない自治組織の低迷と住民の変化（価値観の多様性）が地区の区長会において報告された。

　「地域づくりは人づくり」と言われるとおり、自治組織の低迷は次世代の人材育成に直結する大きな問題であり、早急な対応が必須と思われるが、現在の状況をどのように捉えているか。

　また、問題解消に向けた取り組みは。

答　各自治組織の状況や課題については、主に地区公民館や区長会を通じて把握している。

　また、役場各課に寄せられる個別具体的な問い合わせや相談についても関係部署で情報共有を図って対応していく。

　コロナ禍をきっかけに、各自治組織でも自治運営や行事について従前どおり実施しているものや見直しが行われたものがあると承知しており、引き続き状況を注視していく。

二井宿キャンプ場白紙撤回の真相と今後について

問　昨年、二井宿キャンプ場開発計画が住民の反対多数により白紙となった。そこに至るまでの経緯と今後の展開は。

▲中高生が取り組んだモザイクアート

答　計画をしていた場所は豚舎跡地であり、町は平成30年に土地を取得し、地域振興のために活用されるよう、これまで地区民の希望を取り入れた活用を検討してきた。

　地区において検討委員会が発足し、研修会やアンケート調査等を行いながら、検討を行ってきた経過がある。

　事業者から跡地のキャンプ場利用という提案があり、地区民からも同様の提案もあったことから、事業を進めることとした。

　令和４年、５年に区長会や各種団体等へ説明を行い、特段の反対意見もなかったが、令和５年11月に地区で開催した説明会でキャンプ場整備への反対意見が出されたことから、計画を一旦中止した。

　今後の豚舎跡地の利活用については、地域住民の要望も改めて伺い、要望内容を反映した利活用となるよう、地区と連携を密にしながら進めていく。

若い世代が参加できる場所づくりを

問　若い世代の誰もが自由に参加でき、思いをカタチにできる場所づくりの実現に向けたアイデアは。

答　人口減少、高齢会が進展し、多方面から若い世代に対する期待が高まる中において、若者自らが行う取り組みを町としてできる範囲の中で今後も積極的に支援していく。

●表紙のひと●

き・ら・り

まほろば人

亀岡地区太鼓団体

The Monju

（代表）吉田恵宝（よしだけいほう）さん

TheMonju 誕生のきっかけは？

平成13年度、地元亀岡小学校で宝くじ助成を受け、和太鼓購入。

これを機会に、地元伝承の念仏踊りにちなんだ太鼓楽曲「文殊太鼓」を制作（まほろば太鼓二瓶富太郎氏作）。保護者等で演奏発表お披露目。

The Monju（平成14年5月12日～）の活動は？

平成14年度、保護者、地域の有志により太鼓団体The Monju設立（参加メンバー15名でスタート）。

The Monjuのネーミングは、若い人にも参加してもらえるように…。その成果は…。亀岡小学校体育館にて週２回練習。腕を磨く日々。

初演奏は、屋代地区の太鼓団体「山響（やまびこ）太鼓」10周年記念イベント（時沢小学校）に参加。以後、地区のイベントに出演（念仏踊り奉納式典、敬老会、地区新春初顔合わせ等）

15年度、当時の地区公民館長の小松春男氏より法被一式寄贈いただく。町ねほだれ大会に初参加。オープニングを飾る。

17年度から亀岡四部落の行蔵院「四葉太鼓」とコラボレーション。練習場所を行蔵院に移す。四葉観音祭に地元子どもたちと初出演。

23年度、結成10周年を迎え、10周年記念祝賀会開催。

高畠町町民憲章にて優秀実践表彰を受ける。地域のイベント参加のほか、高齢者施設での演奏、会社の記念式典での演奏、米沢市六郷地区太鼓祭り出演（15年連続）など幅広く活動。

令和３年度、結成20周年を迎える。現在、23年目を迎え、会員10名で活動。

団体のモットーは？

太鼓の技術向上はもちろんのこと、太鼓演奏を通して地区内外の人々と交流を深め会員の成長と、地域づくりに貢献する。

長続きの秘訣は？

週１回の練習日。90分のうち、練習30分、お茶のみ60分。　これが大事！！

編集委員

委員長　平佐秋武青金西
副委員長　藤葉田柳子方
委員　純晶正　睦茂
誠子子隆貴夫太

発行／〒992-0392 山形県東置賜郡高畠町大字高畠436　高畠町議会 ☎0238-52-4485（FAX兼）
編集／広報広聴常任委員会　発行責任者／議長 関　陽介　印刷／カトヤ印刷
2024.10.20